

平成21年度 第6回心理学 FD/IT 活用研究委員会議事録（案）

I. 日時：平成22年2月15日（月） 11:00 - 13:00

II. 場所：(社) 私立大学情報教育委員会 事務局会議室

III. 出席者：今井（芳）副委員長、中澤委員、今井（久）委員、金子委員、大島委員
森下、恩田

I. 検討事項

第5回委員会とその後の宿題をもとに、心理学における情報教育についてさらに検討した。まず検討の方向性として、心理学は文系他分野と比較してコンピュータや IT 機器を活用している分野なので、心理学としての独自色を出そうということになった。そこで、提出された宿題のうちで、心理学としての特徴をより反映させている委員の案をたたき台とし、それに加味しながら検討することとなった。

(1) 到達目標1について

・原案にある剽窃についての教育は重要だと指摘された。そこで、これをより一般化し、倫理という形で言及する方向で原案を修正することとなった。

・到達目標に文献検索を入れることには賛成だが、文献検索は心理学に限らないリテラシーなので、心理学固有の特徴を出した方が良いとの指摘があった。そこで、心理学関係の具体的なデータベース名を例示することとなった。宿題として、挙げておくべきデータベース名をメールで集めることとなった。

・インターネットの使用については、活用できるという側面だけでなく、その限界を弁えて、書籍など旧来の媒体も適宜使えるようリテラシーが重要であると指摘された。そこで、「インターネット情報の限界を知って」などの文言を盛り込むことになった。

(2) 到達目標2について

・心理学を学んだことの成果のひとつとして、回答バイアスや調査バイアスなどを評価し吟味できるといった内容を明記したらどうかという意見が出された。

・心理学の場合、調査や実験の対象が人間であることを考え、到達目標2にも「倫理的な配慮ができる」という内容を明示的に盛り込むべきではないかとの意見が出され、その方向で修正することとなった。

(3) 到達目標3について

・到達目標3に関しては、特定の授業や教育内容と必ずしも対応しているわけではないので、独立した目標としてどのように扱うかが議論された。そして、到達目標3は、4年間心理学を学んだことのいわば「総合力」に相当するものであり、学士力についての現状と将来を考えると、今後のためには盛り込んでおいた方が良くだろうということになった。

・そこで、原案をもとに、「心理学的な視点」「社会現象の背後にある人間の心や行動の理解」等といった文言を盛り込んで整理し、中間まとめを作成した。

II. 今後の進め方

委員会の場で作成した暫定的な最終案をメールで確認し、意見交換と修正を2月末までに行うこととなった。

この中間まとめについて、4月にインターネットでパブリックコメントを求め、次年度の委員会で最終（案）をまとめる。

III. 次回の委員会

今年度の委員会は今回が最後になる。次年度の委員会については、改めて日程を決定する。

心理学の情報教育

到達目標 1

人間の心や行動を理解するために、情報通信技術を用いて文献検索や資料の収集、レポートの作成やプレゼンテーションを行うことができる。

到達度

- ① 情報検索と主要なソフトウェア（ワープロ、表計算、プレゼンテーション）に関する基本的な情報処理能力を習得している。
- ② 心理学関連の文献、資料の所在を知っており、またインターネット情報の限界を知り、目的に応じて適切に検索することができ、その情報の信頼性を評価できる。
- ③ 適切な引用方法を知った上で、収集した情報に基づいたレポート作成やプレゼンテーションができる。

教育内容・教育方法

- ①は、初年次教育で設定されている情報処理科目で対応する。
- ②は、演習や講義などにより、CiNii、PsycInfo、EBSCOなどのデータベース、日本心理学会を初めとする内外の心理学関連諸学会・団体のサイト、各種マス・メディアの情報など、文献や資料の検索方法、情報の信頼性について理解させる。
- ③は、演習や講義などにより、文献や資料の引用の仕方（および剽窃という概念）、自分の考えの述べ方について理解させ、実際にレポートを書かせ、添削する。

到達度確認の測定手段

- ①から③は、レポート、テストや教育支援システム等を用いて確認する。

到達目標 2

人間の心や行動に関わる現象を明らかにするために、実験・調査・観察に情報通信技術を活用することができる。

到達度

- ① 研究目的に応じて科学的に行動を観察し、数量化することができる。

- ② 統計ソフトを用いて、収集したデータの解析(適切な解析方法の選択と実施)を行い、その解析結果を評価、解釈することができる。
- ③ 倫理的側面に配慮した研究計画を立てることができる。
- ④ インターネットを利用して、アンケート調査、心理検査を実施することができる。
- ⑤ コンピューターを用いて、心理学実験の制御ができる。

教育内容・教育方法

- ①は、人間の心や行動をどのように測定できるかについて講義した後、心理学実験法などのような実習科目を通じて、実際に研究課題を設定して、実験や質問紙調査のデザインを行わせる(その際、どのようなデータ解析を行うべきであるかについて事前に考えられるようにしておく)。
- ②は、実習科目において①で得られたデータを統計ソフトを用いて分析することを体験させ、その解析結果の解釈を習得させる。
- ③から⑤は、倫理的側面を教育した上で、情報通信技術を用いる実験や質問紙調査を計画させ、一連の研究プロセスを体験させる。またそのために必要なプログラムの作成法や汎用ソフトの使用法を学習させる。

到達度確認の測定手段

- ①から⑤は、レポートや学習ポートフォリオを通じて確認する。

到達目標 3

情報通信技術を用いて、社会の諸現象の理解に心理学的な視点を応用することができる。

到達度

- ① ウェブサイトやブログなどから、様々な人間の異質性や多様性の存在を認識できる。
- ② ウェブサイトやブログなどから、社会現象の背後にある人間の心や行動を理解できる。

教育内容・教育方法

- ①と②は、演習や実習科目を通じて、ウェブ上にある現象の中からいくつかを選択し、それらを心理学的に理解する作業を体験させる。さらに、その心理学的説明に関する自分なりの(批判的な)考えをもち、新たな研究課題の設定、その研究計画を立てることを体験させる。

到達度確認の測定手段

- ①と②は、レポートや学習ポートフォリオを通じて確認する。